

石川島記念病院 薬剤科 橋本 杏里

功 績 昨年11月に、病院内初の、日本静脈経腸栄養学会の認定資格である栄養サポートチーム専門療法士（NST専門療法士）を取得。の専門性を生かして患者の病態に合わせた薬剤管理をおこなった功績。

推 薦 者 薬剤科長 佐久間 尚子

推 薦 理 由 昨年の12月、日本静脈経腸栄養学会認定の栄養サポートチーム専門療法士（NST専門療法士）を予定より1年早く取得。更に、取得した専門性を日々の業務に活かして取り組んでいます。また、NST専門療養士が在籍していることは、患者さんに質の高い栄養サポート業務を提供し、同時にNST加算算定体制の構築にも繋がります。療養士を誰よりも早く取得できた橋本薬剤師を、理事長賞に推薦したく存じます。

内 容

橋本さんは、入職して間もなく褥瘡・NST委員会のメンバーとなりました。当院は、心臓疾患を中心とする急性期病院ですが、入院患者さんには様々な既往症を抱えるご高齢者も多く、チーム医療としての栄養療法の必要性を強く感じました。そこで橋本さんは、専門性ある知識の習得のために日本静脈経腸栄養学会に入会し、H29年1月に自ら栄養サポートチーム専門療法士（NST専門療法士）を取得することを決意しました。NST専門療法士の資格取得には、学会認定教育施設での40時間の研修と症例報告による単位取得、および資格試験が必要で、当初の予定では、科長とも相談して「H30年秋には受験できるように」、という計画を立てていましたが、仕事と両立させながら1年以内で単位を取り終え、受験勉強も頑張った結果、29年11月に試験を受け、1年早く合格。当院で初めての、NST専門療法士の資格を取得しました。現在ではそのスキルを生かし、院内NSTや病棟薬剤師という立場の中で知識を活用しています。一例として、CKD患者様のBUNが54mg/dL上昇をしてきたことに気づき、上昇の要因分析を行ない、BUN上昇が脱水の可能性と蛋白量の過多の可能性があると考えて、主治医に利尿剤であるFurosemide40mg/DAYから20mg/日及びSpironolactone50mg/日から25mg/日に減量、並びに食事としての蛋白量を55gから45gまで減量することを提案しました。その結果、BUNは14mg/dLまで低下、患者様の状態は安定しました。薬剤師の観点からの投薬調整と、臨床栄養学の観点からの食事改善を組み合わせることができたことが、良質な栄養療法の結果に繋がった事例と考えられます。このように自分が得たスキルを生かし、ひとりひとりの患者さんに向き合う姿は職員の範になるもので、理事長賞に推薦いたします。